

問1: 下線部① "Rarely have I seen my sister so bewildered" の意味

正解: ② I have seldom seen her so confused.

・構文と語彙のポイント

・否定語の倒置: 文頭に "Rarely"(めったに～ない)という否定語が来ているため、疑問文の語順(Rarely + have + I + seen...)に倒置されている。

・bewildered: 「当惑した」「途方に暮れた」という意味。

・選択肢の検討

・① "so pleased"(そんなに喜んでいる): 内容が正反対である。

・② "seldom... confused"(めったに...混乱していない): "seldom" は "rarely" の言い換えであり、"confused" も "bewildered" と意味が合致する。

・③ "behaving so wildly"(そんなに荒々しく振る舞う): 混乱はしているが、暴れているわけではない。

・④ "seldom... excited"(めったに...興奮していない): "excited" はポジティブな興奮にも使われるが、ここでは「困惑」のニュアンスが重要であるため不適。

問2: 下線部② "her constant companion" の説明

正解: ④ My sister always has the catalogue with her and often consults it.

・語彙のポイント

・constant companion: 直訳すると「絶え間ない仲間」。ここでは比喩的に、カタログを片時も離さず持ち歩き、常に眺めている様子を指している。

・選択肢の検討

・① "boasts of... to her friends"(友人に自慢する): 自慢しているという記述はない。

・② "shows... to her husband"(夫に見せる): 夫と会話はしているが、カタログを「常に見せている」ことがポイントではない。

・③ "likes the company that produces..."(製造会社を気に入っている): "companion"(仲間)と "company"(会社)を掛けたひっかけ。文脈に合わない。

- ④ カタログを常に持ち、頻繁に参照している:これが「常に一緒にあるもの」の正しい説明である。

問3: 第3段落の内容と一致するもの

正解: ② 以前よりも豊富な種類から食料品を選ぶことができるようになった。

• 内容のポイント

• 第3段落では、近所のスーパーに48種類のヨーグルト、134種類のワイン、64種類の洗剤など、計3万点の品揃えがあることが具体的に述べられている。

• 選択肢の検討

- ① 「学生の就職率は上昇傾向にある」: 本文に "thousands of different careers" (数千もの異なる職業) という記述はあるが、就職率については一切言及がない。
- ② 食料品を豊富な種類から選べる: 本文の具体的な数値(ヨーグルトやワインの種類)と完全に一致する。
- ③ 「旅行案内書が数多く出版されたため、旅行先の選択肢が増えた」: 旅行先(holiday destinations)が増えたとはあるが、その理由が「案内書の出版」だとは書かれていない。
- ④ 「ネットショッピングにより、生活様式の多様化が進んだ」: ネットストアに数百万の商品があることや、多様なライフスタイルについては触れているが、それらが「ネットショッピングが原因で多様化した」という因果関係までは述べていない。

問4: 空所④に入れる語

正解: ④ than

• 語彙・文法のポイント

• no other A than B: 「B以外のAはない」「Bにほかならない」という比較を用いた慣用表現。

• 文脈は「(昔の電話の)黒い箱は、電話をかけること以外の目的には役立たなかった」。

• 選択肢の検討

- ① to / ② of / ③ with: いずれも "no other purpose" と繋げて「～以外の」という意味を作ることはいできない。

問5: 下線部⑤ "that did us fine" の意味

正解: ① A simple telephone was all we needed.

- 語彙のポイント

- do someone fine: 「(人にとって)十分である」「間に合う」「申し分ない」という意味。

- 直前の文で「電話をかけるだけの機能しかなかった」と述べ、それに対して「それで十分だった(満足していた)」と続けている。

- 選択肢の検討

- ①「シンプルな電話が、私たちが必要なすべてだった」: 本文の「それで十分だった」という内容を的確に言い換えている。

- ② "seldom regretted"(めったに後悔しなかった): 後悔の有無ではなく、その機能で満足していたかどうかが焦点である。

- ③ "proud of our mysterious black box"(不思議な黒い箱を誇りに思っていた): 当時はそれが普通であり、「誇りに思う」といった感情表現は本文にない。

- ④ "seemed very beautiful"(とても美しく見えた): 機能性の話をしており、見た目の美しさを評価しているわけではない。

問6: 下線部⑥ "abundance makes us giddy" の意味

正解: ② 選択肢が多いことは、選ぶ人の頭痛の種となる。

- 文脈の分析:

直後に "but there is a limit to its benefits(しかし、その利点には限界がある)"、"too many choices destroy quality of life(多すぎる選択肢は生活の質を破壊する)" と続いており、選択肢の多さがもたらす負の側面を強調している。

- 語彙:

"giddy" は「目がくらむ」「浮つく」という意味だが、ここでは「多すぎて混乱する」「圧倒されて正常な判断ができなくなる」というニュアンスで使われている。

- 選択肢の検討:

- ①「わくわくする」: ポジティブな意味合いであり、直後の否定的な文脈(生活の質を破壊する)と矛盾する。

- ③「購入者は裕福になった気分になる」: 本文は「選択の困難さ」を論じており、購入者の心理的な富裕感については言及していない。

- ④「不要な物まで買うようになる」: 第2段落ではむしろ「何も買わなくなる(bought nothing)」と述べられており、内容が一致しない。

問7: 下線部⑦ "carried out" の意味

正解: ③ conducted

・語彙のポイント:

"carry out" は「(計画・調査・実験などを)実行する、執り行う」という重要な熟語である。科学的な実験(experiment)を「行う」という文脈では、"conduct" が最も適切な言い換えとなる。

・選択肢の検討:

- ・① "showed" (見せた): 実験の結果を見せることはあるが、実験そのものを「実行する」という意味ではない。
- ・② "invented" (発明した): 実験の手法を発明したのではなく、既存の実験を「行った」という文脈である。
- ・④ "announced" (発表した): 実験の結果を公表すること。実行そのものを指す言葉ではない。

問8: 下線部⑧ "the same" について本文と一致「しない」もの

正解: ③ 二日目は顧客が割引商品の方を好んで買った。

・文脈の分析:

ジャム(jelly)の実験のポイントは、「24種類(選択肢多)」よりも「6種類(選択肢少)」の時のほうが、売上げが10倍になったという点にある。

・選択肢の検討:

- ・①「売上げが伸びた」: 二日目(6種類)は初日(24種類)の10倍売れたので、一致する。
- ・②「商品を選べなかった顧客が多かった」: 初日は選択肢が多すぎて、顧客は "could not come to a decision (決断できなかった)" とあるため、一致する。
- ・③「割引商品の方を好んで買った」: 本文には "buy them at a discount" (割引で買うことができた)とはあるが、割引商品と定価商品を比較してどちらを好んだかという記述はない。したがってこれが「一致しない」選択肢となる。
- ・④「選択肢が少ない日の方が、商品はよく売れた」: 実験の結論そのものであり、一致する。

問9: 空所⑨に入る語

正解: ① account

・語法・熟語のポイント:

"take A into account" で「Aを考慮に入れる、検討する」という、入試頻出の熟語である。

文脈:「しかし、彼らは誰かを選ぶ際に、実際にこれらの基準(知性やマナーなど)を考慮に入れているのだろうか？」

• 選択肢の検討:

- ② "bargain"(交渉、安売り): "take into bargain" という表現はあるが「さらにおまけに」という意味になり、文脈に合わない。
- ③ "range"(範囲): 形が似ているが、熟語を構成しない。
- ④ "sample"(見本): 意味をなさない。

問10: 下線部⑩ "millions of potential partners are available" の意味

正解: ④ There are a great many possible partners to choose from.

• 文脈の分析:

オンラインデートの時代になり、かつての村社会(候補が20人程度)とは異なり、何百万人ものパートナー候補にアクセスできるようになった状況を説明している。

• 語彙:

"potential partner" は「パートナーになる可能性のある人(候補者)」を指す。

• 選択肢の検討:

- ①「潜在能力(能力)の低いパートナーがいる」: "potential" を「潜在能力」と誤訳させるひっかけ。ここでは「候補」の意味。
- ②「ネットには候補がほとんどいない(few)」: 本文の "millions"(数百万)と真逆の内容である。
- ③「以前よりPCを使う人が増えた」: 事実かもしれないが、下線部が強調しているのは「候補者の数」であり、PCの普及率そのものではない。
- ④「選ぶことができる非常に多くの候補がいる」: 下線部の内容を正確に言い換えている。

問11: 下線部⑪ "you cannot" の意味

正解: ② You can by no means be confident that your choice is right.

• 文脈の分析:

直前の文で「200もの選択肢に囲まれて混乱しているとき、どうすれば正しい選択をしたと確信 (be sure) できるだろうか?」と問いかけている。これに対する答えが "you cannot" なので、意味は「(正しい選択をしたと) 確信することはできない」となる。

・ 選択肢の検討:

- ・ ①「多くの選択肢があなたを混乱させれば、満足できる」: 本文は「混乱 = 不満 (dissatisfied)」と述べており、逆の内容である。
- ・ ②「自分の選択が正しいと確信することは、決して (by no means) できない」: 本文の "cannot be sure" を的確に言い換えている。
- ・ ③「今より多くの選択肢を持てると前向きになれない」: 選択肢が将来増えるかどうかの話ではない。
- ・ ④「将来、より多くの選択肢に囲まれるとは確信できない」: これも将来の選択肢の数の予測ではなく、「今の決断の正しさ」についての確信を論じている。

問12: 下線部⑫ "stick to them rigidly" の意味

正解: ③ always be sure to follow your criteria.

・ 語彙・文法のポイント:

- ・ stick to: 「(規則や主義などを) 守る」「～に固執する」。
- ・ rigidly: 「厳格に」「頑なに」。
- ・ つまり「(決めた基準を) 厳格に守りなさい」という意味になる。

・ 選択肢の検討:

- ・ ①「自分の基準を繰り返し声に出して読みなさい」: 音読 (read aloud) の指示は本文にない。
- ・ ②「自分の決定について注意深く考えなさい」: これは決定を「下す前」の段階の話であり、下線部が指す「基準 (criteria)」の扱いではない。
- ・ ③「常に必ず自分の基準に従いなさい」: これが下線部の正確な言い換えである。
- ・ ④「以前に何をしたかを常に覚えておきなさい」: 過去の経験ではなく、今決めた基準を守るかどうかの話である。

問13: 下線部⑬ "irrational perfectionism" の結果として述べられているもの

正解: ① 浴室のタイルの素材を一つに決められないこと

・ 文脈の分析:

"irrational perfectionism"(不合理な完璧主義)とは、膨大な選択肢がある中で「完璧な決断」をしようとすることを指す。筆者はこれを「不可能だ」と断じている。この不合理な状態に陥っている具体例を、本文の最初から探す必要がある。

• 選択肢の検討:

- ①「浴室のタイルを決められない」: 第1段落の姉の状況である。彼女は膨大なカタログを前に混乱(bewildered)しており、完璧主義が招いた停滞の典型例として提示されている。
- ②「筆者が幼少期に一種類の魚しか食べなかった」: これは単なる「昔の選択肢が少なかった時代」の説明であり、完璧主義の結果ではない。
- ③「ネットで高価な品物を購入してしまう」: 高価な買い物の失敗については記述がない。
- ④「食べきれないほどのヨーグルトを購入してしまう」: 選択肢は多いが、大量に購入して失敗したという話ではない。

問14: 下線部⑭ "good enough" is the new optimum の内容

正解: ③ We can be happy even if our choices are not perfect.

• 文脈の分析:

「最高(the best)でなければならないのか? いや、むしろ『十分良い(good enough)』こそが新しい最適解だ」と述べている。これは、完璧を追い求めてストレスを感じるよりも、合格点に達していれば満足しようという提案である。

• 選択肢の検討:

- ①「私たちが幸せになるには不十分だ」: 逆である。これこそが幸せへの道だと述べている。
- ②「最高の選択をすることは、多くの利益をもたらす」: 本文は「最高」を求めることが不満に繋がると論じている。
- ③「選択が完璧でなくても、私たちは幸せになれる」: これが "good enough"(十分良い)という考え方の核心である。
- ④「最高の製品を買うことだけが幸せへの道だ」: 筆者が否定している考え方そのものである。

問15: 本文の主題として最も適切なもの

正解: ④ The More Choices the Better?

• 全体の要旨:

一般に「選択肢が多いほど自由で良い」と思われがちだが、実際には多すぎる選択肢は麻痺、後悔、不満をもたらす（選択のパラドックス）。したがって、完璧主義を捨て「十分なもの」で満足することが賢明だ、という内容である。

• 選択肢の検討：

• ①「消費者の選択は最善か？」：消費者の選択の是非ではなく、選択肢の「数」がもたらす影響がメインテーマである。

• ②「より良い選択をするための3つの基準」：ライフパートナーなどの例は出ているが、明確な「3つの基準」を提示するハウツー記事ではない。

• ③「選択肢が一つしかないことの利点」：極端すぎる。筆者は「選択は進歩の尺度だ」と認めた上で、その「限界」を論じている。

• ④「選択肢は多ければ多いほど良いのか？」：この問いかけに対し、本文全体を通して「いや、必ずしもそうではない（逆効果になることもある）」と論じており、タイトルとして最も相応しい。



私の姉と夫は少し前に未完成の家を購入した。それ以来、私たちは他のことについて何も話せなくなった。この2ヶ月間の唯一の話題は浴室のタイルだ。セラミック、大理石、金属、石、木、ガラスなどである。姉がこれほど当惑しているのを見たことはめったにない。「選択肢が多すぎるわ」と彼女は叫び、両手を上げて、常に手放さないタイルカタログへと戻っていく。

数えて調べてみたところ、地元の食料品店には48種類のヨーグルト、134種類の赤ワイン、64種類の掃除用剤があり、合計3万点もの商品が並んでいた。最大級のオンラインストアでは数百万点もの商品が提供されている。今日、人々は何千もの異なる職業、さらに多くの休暇先、そして数え切れないほどのライフスタイルといった、当惑するほどの数の選択肢に直面している。これほど多くの選択肢があったことはかつてない。

私が若かった頃、ヨーグルトは3種類、テレビ局は3つ、教会は2つ、チーズは2種類（マイルドかストロングか）、魚は1種類、そしてスイス郵政公社から提供された電話機が1台しかなかった。ダイヤルのついた黒い箱は、電話をかけること以外の目的には役立たなかったが、それで十分だった。対照的に、今日、携帯電話ショップに入る人は誰でも、ブランド、モデル、契約プランに圧倒される危険にさらされている。

それでも、選択は進歩の尺度である。それが私たちを計画経済や石器時代から分かつものである。確かに、豊かさは私たちを浮き足立たせるが、その利点には限界がある。それを超えると、多すぎる選択肢は生活の質を破壊する。これに対する専門用語が「選択のパラドックス」である。

心理学者のバリー・シュワルツは同名の著書の中で、なぜそうなるのかを説明している。

第一に、大規模な選択肢は内面的な麻痺（決断不能）を引き起こす。これをテストするため、あるスーパーマーケットが、顧客が24種類のゼリーを試食できるスタンドを設置した。顧客は好きなだけ試食して、割引価格で購入することができた。翌日、店主はわずか6種類のフレーバーで同じ実験を行った。結果はどうだったか。2日目の方が10倍も多くのゼリーが売れたのである。なぜか。これほど広い選択肢があると、顧客は決断を下すことができず、結局何も買わなかったのだ。この実験は異なる商品で数回繰り返されたが、結果は常に同じであった。

第二に、選択肢が広がるほど、より不十分な決定を下すようになる。もし若者に人生のパートナーにおいて何が重要かを尋ねれば、彼らは知性、礼儀正しさ、温かさ、傾聴力、ユーモアのセンス、身体的魅力といった通常の特性を次々と挙げるだろう。しかし、誰かを選ぶ際に、彼らは実際にこれらの基準を考慮に入れているだろうか。かつて、平均的な規模の村に住む若い男性は、一緒に学校に通った同年代の女性をせいぜい20人ほど知っているだけだった。彼は彼女たちの家族を知っており、彼女たちも彼を知っていたので、いくつかのよく知られた属性に基づいた決断を下していた。今日、オンラインデートの時代には、数百万人の潜在的なパートナーが利用可能である。この多様性によって引き起こされるストレスが、男性の脳に、決断を「身体的魅力」という単一の基準に絞り込ませてしまうことが証明されている。この選択プロセスの結果は、すでにご承知の通りだろう。おそらく個人的な経験からさえも。

最後に、大規模な選択肢は不満をもたらす。200もの選択肢に囲まれ、当惑しているときに、どうして正しい選択をしたと確信できるだろうか。答えは「できない」である。選択肢が多ければ多いほど、より不安になり、その結果、後で不満を感じることになる。

では、何ができるだろうか。決断を下す前に、自分が何を望んでいるのか正確に慎重に考えなさい。自分の基準を書き出し、それらを厳格に守りなさい。また、完璧な決断を下すことは決してできないということを悟りなさい。氾濫する可能性の中で完璧を目指すことは、不合理な完璧主義の一形態である。

代わりに、「良い」選択を愛することを学びなさい。人生のパートナーに関しても同様である。最高のものだけを求めるべきか。無限の多様性があるこの時代において、むしろその逆が真実である。すなわち、「十分良い(good enough)」ことが新しい最適解なのである。